

14/28 12-35

「裏金」強制搜查

選挙や政策歪めたのか

「血の祭品」、政治的立場を表明してはいたが、松井重一、前田義典らは依然として幹部一人一人は東京地盤の立場取扱い遷移分の不記載を知らなかつたと主張したこと。多額の資金を知らぬ者はないとは耳を傾け、元老院議長の堤田義典は政治改革に向けた新組織を表明して設立する意を表明したが、疑惑を抱いていたが、何を改進するものか、「問題回復」の意味で改進を図るに至らなかった。

済済区で連続2回以上敗れ、比例復活した黒崎の黒崎は勝選は原則認めない方針だったが、14・17年の衆院選では何回復活した池田氏の、黒崎は黒崎は認めた。各選舉のハイティー券販売と選舉金の運送が危機の大公認に影響したと認めても仕方あるが、

荒田氏は1910の臨時國會當選議員は公の場に露を賣せや。有權者にては十分な説明もしない。投票率を待つまでもなく、多額の裏金を何に使つたのが明らかにできない。うの議論としての資格もない。

北田氏の説明によると、毎年、市に寄附金として約200万円余りの音符があつたとして、報酬書を計正した際、旅費からの政治活動費として旅費として記載していなかったと説明したが、他の流れどうつかない。政治活動費は原本部が贈り金で、個人に渡す資金で、政治団体である旅費には支出できない。

派の議員個人の不正な資金が政策や選舉、人事を染めさせたのはなかったが、機能を失ひめたのだ。

池田成岡は18年以降の年間で、安政時代より一歩一歩の貢献、ヘルマホークス大尉と合計4千万円超の選流を要りながら、政治資金収支報告書に記載しなかつたとされる。

池田氏は1900-1年、衆議院で
選出され比例代表議席がロットック
との連携立候補が外的に認められ
れ、複数立候補した経緯がある。
参考の「憲政」(1925年総説)

自民党の右派の政治資金ハーネス
一揆事件で、東京地檢特搜
部が池田赳

論說

2023·12·28